



住民自治は防災から～郷土史防災のすすめ～

地域づくり人材育成講座第1回 2019/11/11

増田 和順 (Kazuyori MASUDA)

(一社)協働プラットフォーム 常務理事

(国研)防災科学技術研究所 客員研究員

立教大学大学院21世紀社会デザイン研究所 研究員

立教大学社会学部社会メディア学科 兼任講師

MAIL:k.masuda@platform.or.jp

例：常総市石下庁舎の被災状況

調査



図 21 常総市石下地区 2015.9.11pm 航空写真 (NIED 撮影)

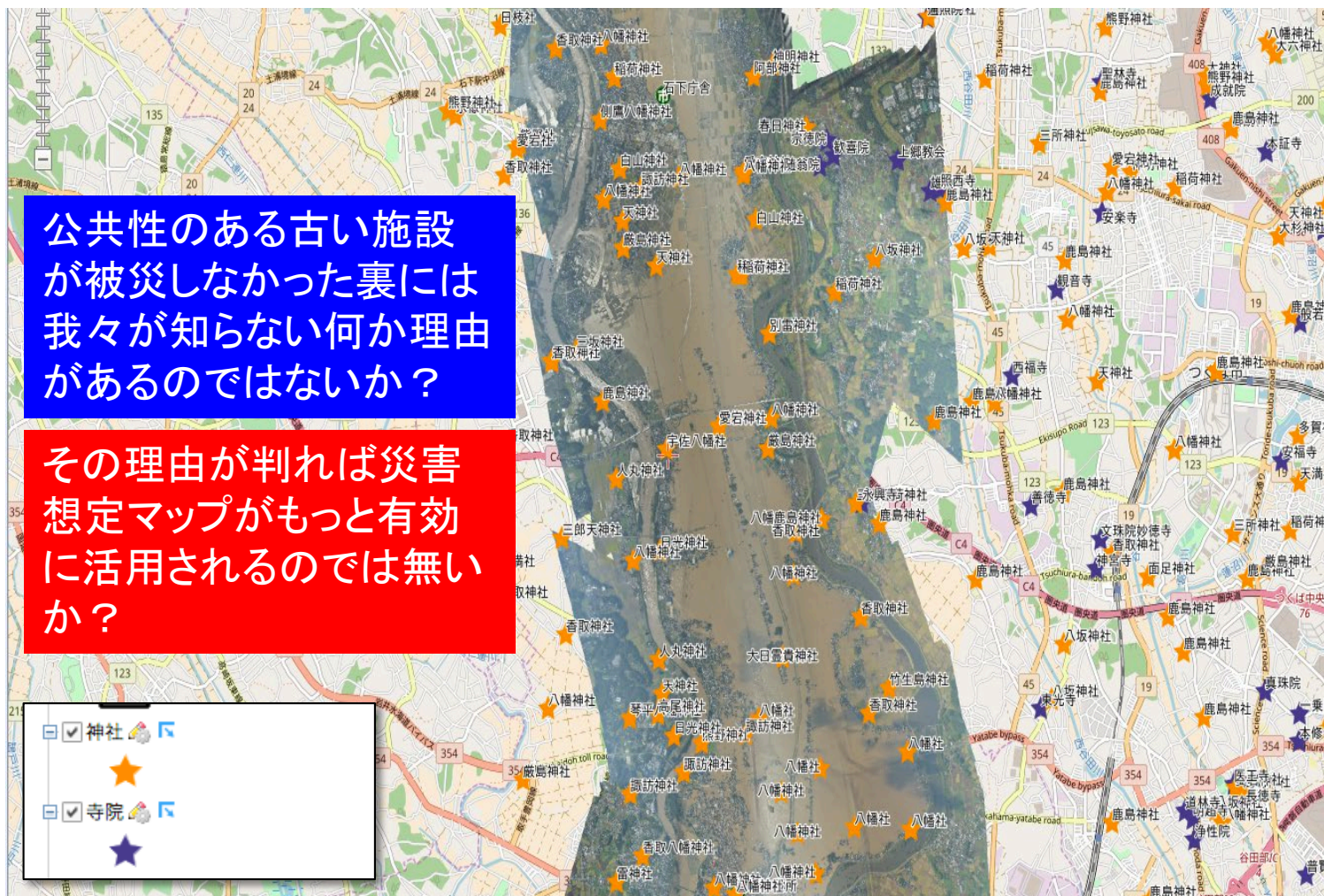
旧庁舎(石毛城址) = 浸水0cm

新庁舎(元湖沼) = 浸水60cm

この研究をはじめたきっかけ

■ 常総水害での被災地調査

- ≫ 浸水想定マップ98%的中⇒6年前に全市民に配布⇒誰も災害時に参考にしなかった
- ≫ 神社仏閣や役場や古い学校は被災を免れており旧街道も被災が軽微
- ≫ 最新の耐震・免震構造の庁舎や学校、バイパス道路は全て浸水被害



いろいろ調べてみました・・・

■ 常総水害以前に発生した地震・津波災害や河川災害を調査

- » 神社仏閣や役場や古い学校は被害が軽微又は被害が少ないという報告有り
- » 「それらは災害に強い場所に立地している」という事実のみで「なぜ災害に強いのか？」の根拠が示されていない・・・

着眼点は素晴らしいのですが、なぜ祭神によって被災に差が出るのかについての論証がとても弱い

■ 権威ある土木建築学会の論文

今から約6年前、土木学会で一見トンデモではないかと疑ってしまうような論文が発表された。それはなんと「スサノオ神を祀る神社は、東日本大震災で津波の被害を免れた」という主旨で、東京工業大学のグループによって書かれた論文だ。宮城県沿岸部に鎮座する神社のうち、スサノオを祀る神社と熊野系神社、さらに八幡系神社のほとんどが東日本大震災の津波による被害を免れた一方、アマテラスを祀る神社の大半が被災したという驚きの内容が記されている。

問題の論文は、東京工業大学大学院の桑子敏雄教授が、当時の学生2名とともに著したものだ。研究の発端は、学生2名のうちの1人だった高田知紀氏（現・神戸高専准教授）が、東日本大震災の支援活動に取り組む中で、被災を免れた神社の鳥居に着目したことだったという。そして研究グループは、宮城県沿岸にある神社の祭神と空間的配置、さらに被害状況を調査してまわった。

その結果、調査対象となった神社のうち、スサノオを祀る神社（17社）で津波の被害を受けたのはわずか1社であることが判明、熊野系神社や八幡系神社でも同様の結果となった。その一方、調査対象215カ所のうち、53社が津波で被災していたが、祭神による内訳では、アマテラスや稲荷大神を祭神とする神社が大半を占めているという事実だった。

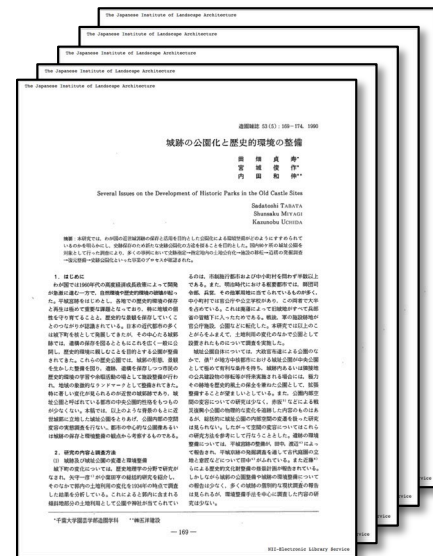
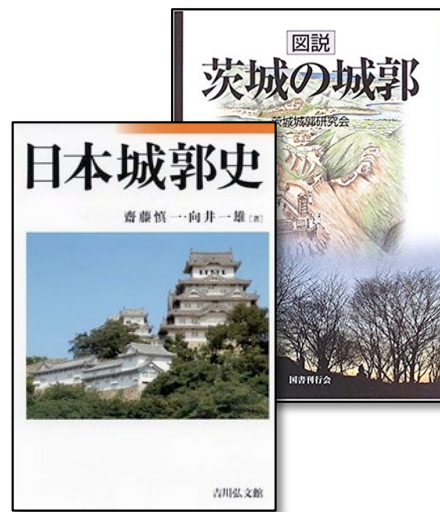
研究成果は、「東日本大震災の津波被害における神社の祭神とその空間的配置に関する研究」という論文にまとめられ、土木学会での発表を経て、2012年の土木学会論文集に掲載された。スサノオに関連する神社が津波被害を免れた理由について、高田准教授は「スサノオは斐伊川（ひいかわ）に住むヤマタノオロチを退治したと古事記にありますが、川の氾濫をたとえた話といわれます。スサノオは水害など自然災害、震災を治める神だからこそ、そうした災いに遭わない場所に祀られたと考えられるのです」（週刊新潮、2017年6月22日号）と語る。

さらに論文によると、スサノオは八坂神社（京都）の祭神である牛頭（ごず）天王と同一視されてきたが、両神とも“水をコントロールする力”をもつ神なのだという。そのために、津波などの水害から人々を守ってくれる神として、災害に遭わない立地に鎮座されたのではないかというのだ。

※ エキサイトニュース：https://www.excite.co.jp/news/article/Tocana_201706_post_13562/から部分引用

2年かけて明確な根拠を突き止めました！

- 調査した神社仏閣や役場や古い学校のほとんどが「城郭＝お城やその関連施設（調練場、倉庫）」だった！
- 城郭は立地条件として災害に強く水運などに有利な場所を厳選して造られている事を、先行研究や城郭に関する書籍で確認！ ➡ **大変重要！**
- 調査範囲に立地する歴史的な地域素材に適用して、歴史民俗調査及び現地踏査を行って仮説が当てはまる事を確認！



城郭は災害に強い場所に造られる



■ 城郭の種類

- ≫ 平城: 主に日本の戦国時代末期から江戸時代にかけて建設された平地の要塞を指す
- ≫ 平山城: 防御的な機能と政庁の役割を併せ持ち、領国支配における経済の中心的役割も果たした
- ≫ 山城: 軍事上、地形により敵の移動を阻害出来、また高所の利として視界を確保できる詰の城(籠城用)であり、通常は平時の居城である平城や平山城と組で存在する
- ≫ 櫓(籠城戦での防御・物見のための仮設の建造物)、のろし台

■ 築城地(縄張り)の三条件

- ≫ 所堅固の地(城郭周辺の地勢からみて要害の地) : 災害に強い、物流・交通の便
- ≫ 国堅固の地(政略的要地) : 丘の上にそそり立ち力を誇示、街道や水道の要衝
- ≫ 城堅固の地(防御機能の高い地) : 敵に責められにくい場所、周囲の状況
- ≫ 三条件を満たす地として舌状地(舌状丘陵)が選ばれる事が多い

戦国時代：神社仏閣は城郭だった

民俗

歴史

- 戦国武将にとって神社仏閣は支城
 - ≫ 出陣時の宿営先にルート沿いの寺社仏閣を接收
 - ≫ 信長が最後を迎えた場所は？⇒**本能寺(単館城郭)**
- 隣国との紛争地帯に神社仏閣を建立
 - ≫ 支城整備の一貫⇒武将が寄進・開基となって建立
 - ≫ 中立の立場⇒領主や豪族間の調停を担当
 - ≫ 武士の習い⇒一族から僧侶に出家(兄弟、母親)
- 権力から独立するために寺社が自ら武装
 - ≫ 城郭化⇒武将など外圧からの影響を排除
 - ≫ 神輿・仏旗⇒農民等の一揆を扇動・支援
 - ≫ 兵力保持⇒僧兵や神人の育成・雇用
 - ≫ **安国寺恵瓊**は安国寺住職でありながら戦国大名に
- 神社や寺院の宗教設備・装備は戦道具
 - ≫ 瓦や銅板葺きの屋根⇒矢や鉄砲や火矢の攻撃に強い
 - ≫ 沢山の伽藍⇒多人数が集団生活できる
 - ≫ 長屋門や蔵⇒食料や武器や建築資材等の物資を保管
 - ≫ **梵鐘や半鐘、ほら貝⇒情報通信手段(資料参照)**
 - ≫ **広い庭⇒緩衝地域(バッファゾーン)**
 - ≫ 池、植木、竹⇒飲料水の確保、動物性蛋白(魚)、資材

本能寺想像図



種子島銃は殺傷距離165m~220m、
装甲貫通距離は50m前後、命中精度
は100m以内



戦国時代に日本で主に使用された「重藤弓」の最大飛距離が400m、殺傷距離は80m、装甲貫通距離30m

江戸初期：城郭跡が続々神社仏閣に

民俗

歴史

■ 織田信長による寺社勢力の粛清

- » 寺社勢力は一揆の首謀者⇒敵対するものは徹底的に粛清

※更に比叡山延暦寺は信長と敵対する浅井家、朝倉家に僧兵を派遣していた⇒宗教弾圧では無い事に注意

■ 豊臣秀吉による「検地」「刀狩り」

- » 検地⇒鎌倉時代から500年続いた荘園制度が崩壊(寺社勢力の収入源)
- » 刀狩り⇒武士の專業化(兵農分離)で神社仏閣の武装解除(仏事・神事専念義務)
- » 天台宗、真言宗、浄土宗、臨濟宗などが財源、権力、武力を同時に失ない一気に廃れる⇒全国で廃寺が相次ぐ

■ 曹洞宗の台頭

- » 秀吉の弾圧で廃れていた寺社を改宗中興(一度衰えていたり途絶えた物を復興させるとこと)して禅院化し道場数を大幅に増やす

※曹洞宗はこの時期に全国普及、現在寺院数では日本一

- » 乞食修行を主とし、武力を否定し権力や金銭から独立した存在

※本尊は本来「釈迦牟尼仏」、もし曹洞宗寺院の本尊が他の仏であれば改宗中興の可能性大

■ 江戸幕府1615年「一国一城令」発布

- » 「主とする城を一つだけ残し他は全て破却する事」を義務付け
- » 新築のみならず無断修復も禁ずるという厳しい制度
- » 破却させられた城郭(支城、国司・土豪の館)跡地に次々と神社仏閣(カムフラージュ＝偽装城)が建立される⇒曹洞宗、祇園社、八幡神社が多い

■ 江戸幕府1631年に「新寺建立禁止令」「本寺制度」発布

- » 「一国一城令」の効果低減阻止

江戸中期：城郭で無い神社仏閣出現

民俗

歴史

- 1638年に徳川幕府が「宗門改め(寺請制度)」を実施
 - » 「宗門人別改帳」を整備しキリシタンの洗い出しと締め出し
 - » 住民の管理を「寺」が行う「寺請制度」の実施
 - » 全国民を信仰の有無に関係なく近くの仏教寺院の檀家に所属
 - » 受け皿の寺院建立が必須
- 農業・漁業・狩猟従事者等が対象
 - » 教義が分かり易い浄土系(浄土真宗、時宗)や日蓮宗が普及
 - » 浄土真宗寺院の9割はこの時期に建立
 - » 神仏習合が進む(地域の信奉が神社だった所に寺院が入り込む手段)
- 寺請制度後の寺院の立地
 - » 門徒の生活地域に近い、低地や河川流域、海辺や山間の谷地等の城郭要素の無い低地・脆弱地盤の微高地に寺院建立
 - » 藁萱葺の屋根、狭い敷地だが、緊急時の情報伝達手段として梵鐘や半鐘は整備
- 寺院の役割の変化
 - » 役所機能⇒かけこみ寺(訴訟、法律相談、更生、金銭貸付)
過去帳管理(戸籍管理等役所業務)
通行手形の発行(国内パスポート)
 - » 学校機能⇒寺子屋(武士以外への一般住民の教育)
 - » 福祉機能⇒炊き出し、乳幼児預かり(幼稚園、保育園)
高齢者福祉(民生委員)



過去帳



寺子屋

明治維新：城郭の公用地化

民俗

歴史

■ 「廃城令」の発布

- » 藩主が管理していた近世城郭及び施設(邸宅、駐屯地、兵舎、馬場、櫓、練兵場など)を明治政府が収用
- » 幕府直轄地になっていた地方の中世城郭(戦国大名や土豪の館&城)跡地も収用

■ 近世城郭の再利用

340の近世城郭(江戸時代の各藩大名の邸宅&城)

- » 76(現在46)⇒官公庁の庁舎
- » 90(現在122)⇒学校施設(東大、京大、東北大、九州大、北海道大、阪大、名古屋大、他旧制高校)
- » 44(現在152)⇒公園
- » 19(現在91)⇒史跡

■ 中世城郭の再利用

中世城郭(戦国大名や土豪の館&城)

- » 旧市町村役場庁舎
- » 尋常小学校、尋常高等小学校
- » 公園
- » 公民館

※これが役所や学校が「避難所」に指定された根拠で、学校や役場が町中の広い一等地にある理由



廃仏毀釈や神社合祀によって取り潰された寺院や神社の敷地も明治政府に接收され、自治体や金融機関等に払い下げられた

※所在地に「丸」「城」「館」「郭」「要害」「濠」「門」「東」「西」「南」「北」「甲」「乙」「丙」「丁」「戊」「陣屋」「館」等、城を構成する町割の名称が含まれている事が多い(水戸の旧県庁=三の丸)

明治維新：神仏分離令

民俗

歴史

- **水神・雷神(香取神社、氷川神社、貴船神社)**
⇒水防(みずぶせ)と雨乞いの神様で、河川や湖沼沿いの見晴らしの良い台地上や、中洲などに存在(神様によって担当する水系がある?)
- **愛宕神社**
⇒火防(ひぶせ)の神様で、ある程度人家がまとまった邑の単位に存在(明治以前からの古い集落=城下町に多い)
- **八幡神社**
⇒武運の神(源氏の氏神)で城郭跡や城下町に多く、八幡大権現という仏教の神でもある
- **鹿島神社**
⇒武運・武道の神で城郭跡や城下町に多い
- **八坂神社・熊野神社**
⇒元は祇園社という寺院であり、祭神の素盞鳴命(牛頭天王)が災いを鎮める力(疫病退散)を持つとされ、村社や郷社に多い(公民館、消防小屋などがある)
- **稲荷神社**
⇒五穀豊穡の神であり、インドの荼枳尼天と習合したことで狐を神使とし、江戸時代に稲荷信仰が流行したことで日本中に広まった⇒農村(低湿地)に多い
- **伊勢神社・神明神社・皇大神社・天祖神社**
⇒天照大御神を主神とする農耕神であり、江戸時代の新田開墾で伊勢信仰が流行し、各地に盛んに作られた⇒農村(低湿地)に多い

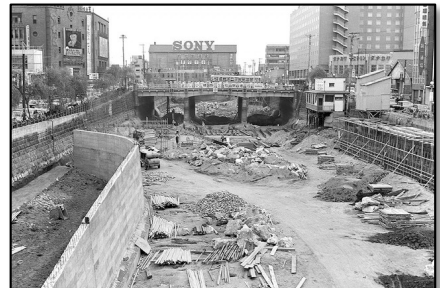
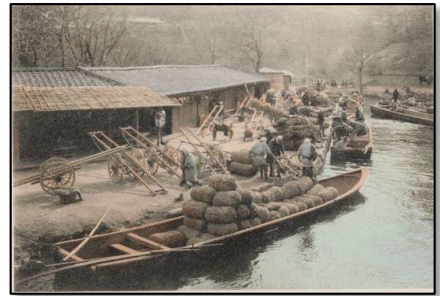
※これが土木学会の論文に書かれたスサノオ系とアマテラス系神社の被災状況に差が出た理由

大正～昭和：生活環境の変化

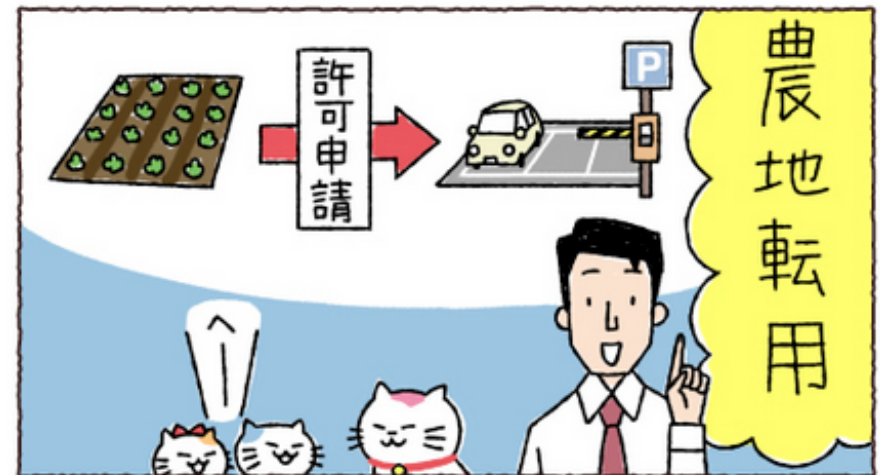
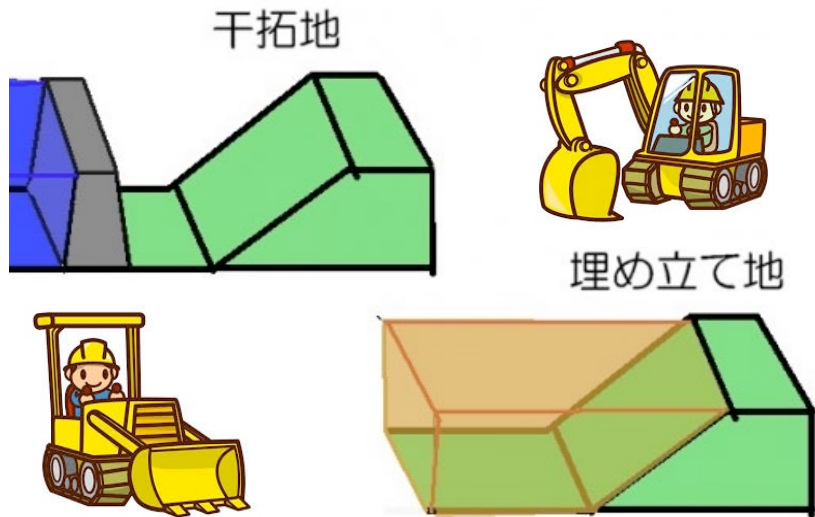
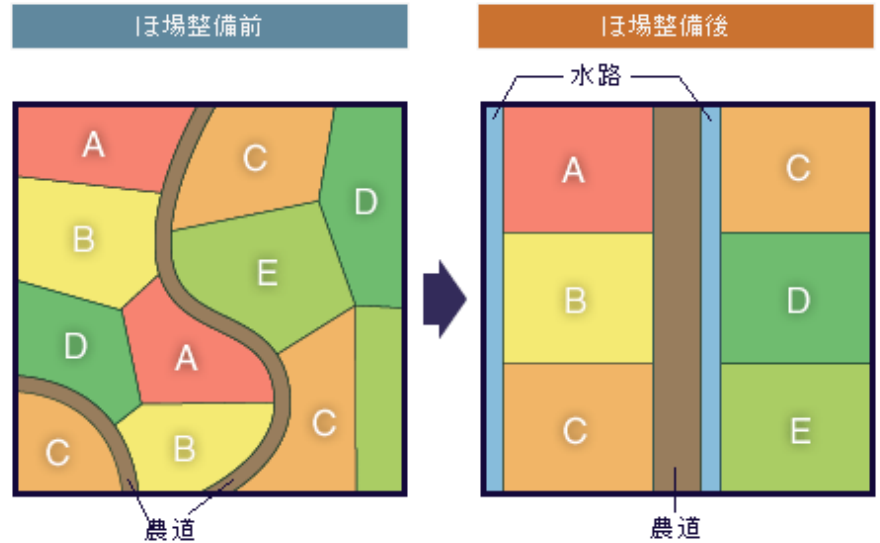
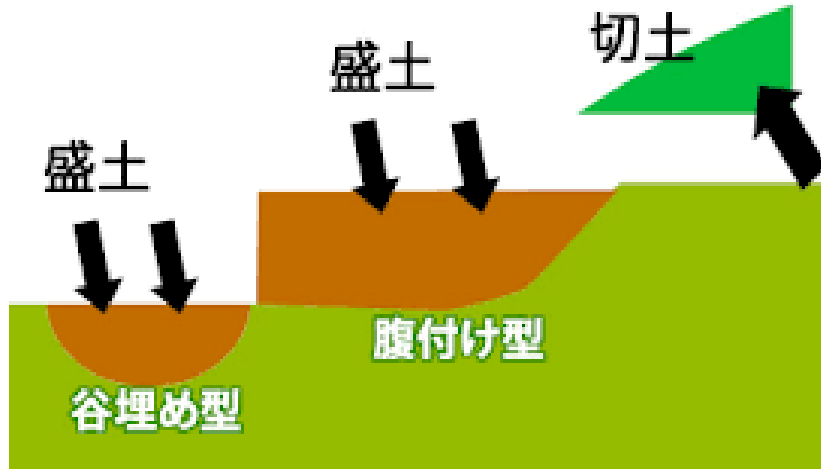
民俗

歴史

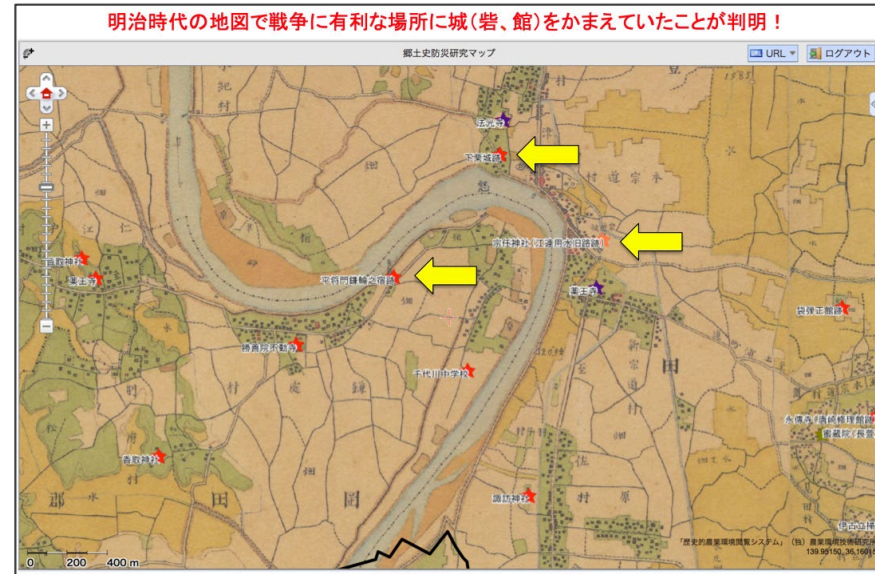
- 江戸以降、低湿地の微高地に街並みを形成
 - ≫ 田園に近い方が作業が楽(舟による運搬、利水)
 - ≫ 火事を消しやすいという実情も？
 - ≫ 日本の人口の80%近くは今も沖積層(低湿地)に居住！
 - ≫ 農民や商人の方が武士よりも裕福だった！
- 戦前まで水運は陸運よりも重宝されていた
 - ≫ 大量・大型の物資や多くの人員を運べる
 - ≫ 川の流れや風を利用することで少ない労力(人員)で運搬
 - ≫ 昔は河川や湖沼が多く縦横に水路が巡っていた⇒江戸幕府の規制が入るほど
- 壊れても良い家づくり
 - ≫ 近隣で簡単に手に入る資材(木、竹、土、藁、紙)で建築
 - ≫ 長持に荷物を常備し緊急時は担いで逃げる生活スタイル
 - ≫ 水害に強く長持ちする⇒高床式住宅
 - ≫ 地震倒壊に強い⇒土蔵
- 鉄道や道路は旧河川や水路を利用して敷設
 - ≫ 平坦で直線的な土地を安価で大量に取得する手段
 - ≫ 首都高は川床や海岸を利用して突貫で工事
⇒東京オリンピックに間に合わせるため
⇒用地買収無しで最短で工事が可能⇒超経済的



昭和：人の手による地形の大幅な変更



例：歴史的な場所と防災には関連が？



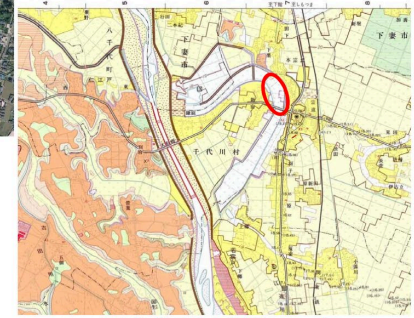
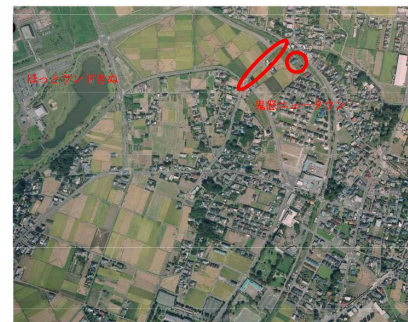
- ↑ 鎌庭は平将門初の戦場
- ・ 「将門鎌庭の宿」(現：香取神社)
 - ・ 「平国香陣」(現：宗道神社)
 - ・ 「源護陣」(現：法光寺)
- 布陣位置がおかしい？ 後退できない・・・。

- 明治時代初期の地図「迅速測図」
- ・ 鬼怒川が蛇行していた事が判明
 - ・ 昭和27年にバイパス工事をした

- 東日本大震災時の国土地理院の報告書 ⇒
- ・ 河川跡の住宅地で激しい液状化現象
 - ・ 下妻市の庁舎建設計画が白紙に！

下妻市宗道周辺(鬼怒川の旧河道)の液状化被害

国土地理院



例：下妻市唐崎周辺の土豪の館



戦国時代に豊田氏の配下だった
 「袋弾正館」
 「唐崎修理館」(永傳寺)
 「伊古立掃部館」(鹿島神社)
 があったと伝わる

疑問：狭いエリアになぜ3人の土豪が
 配置されていたのか？

現在の地図 ↑
 圃場整備された広大な
 田園地帯

1947年の航空写真
 元の小貝川支流が
 はっきりと判る ⇒

圃場整備前だと、旧河道が明瞭に判る＝小貝川の氾濫域で支流があった
 つまり、3つの村は川で隔てられた別集落だった

- 元は小貝川支流に隔てられた3つの別な村の長だった
- 江戸期以降の石高増計画で治水工事と干拓が行われる
- 昭和に入って圃場整備が行われ、川の痕跡が消滅
- 土地の脆弱性もそのまま忘却



例：下妻駅前での地盤沈下

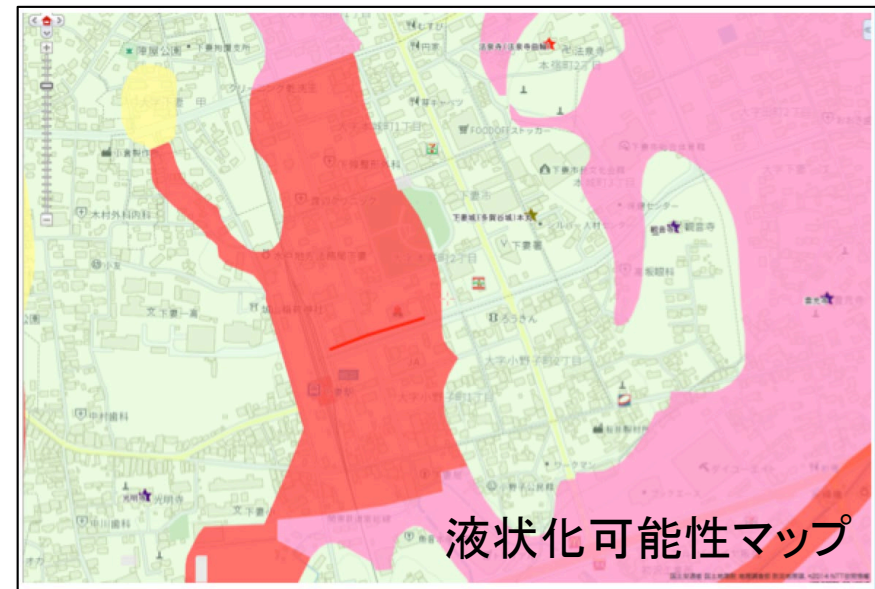


下妻駅東口常陽銀行下妻東支店前では東日本大震災で激しい液状化現象が発生

- マンホールが80cmも隆起
- 道路のいたるところで陥没
- 駅前の建築物で傾斜、損壊が発生

下妻市は城郭跡を昭和40年代初頭に自衛隊を入れて徹底的に盛土切土して平坦化した経緯

- 見かけは変えられても地勢は変えられない
- 居住用住宅は地震・水害共にハイリスク
- 安かろう悪かろう



郷土史防災の効果

- 「神社仏閣や役場や古い学校や遺跡は災害に強い立地である」には歴史的根拠がある
- 歴史的根拠を理解すれば、神社仏閣や役所や学校や史跡が逆に地域防災の指標として使える⇒自治体が配布する災害想定マップ(ハザードマップ)上で確認⇒郷土史防災



○学校防災授業や地域防災ワークショップの新しい手法になる

○歴史・民俗に関する地域のサイドストーリーを把握することで、地域に対する愛着が湧き、地域の持つ脆弱性や耐性をより理解するきっかけになる

○根拠が判れば、ハザードマップなどを持ち歩かなくても、ある程度どこが危険か、どこに避難すべきか推測がつくようになる

○初めて訪れる地域でも寺院や神社や史跡や石碑に着目すればその地域の災害特性や避難先が推定できるようになる

郷土史防災を楽しもう

- 新しいステークホルダー(利害関係者)の発掘
地域や郷土に知識のあるお年寄りや、それらに興味がある住民や歴男歴女の防災活動への参画が期待できる
- 学校における防災学習機会の拡張
歴史や地理や地質や民俗や公民の授業でも防災学習を行うための、指導手法に使える
- 防災に限らず温故知新の視点を大事に
観光施策や特産品開発などでは地域や郷土の歴史や成り立ちに配慮を

文科省の指導要綱にあっても様々な教科に防災をどう取り入れたら良いのか判らなかった

要綱化してあればいいってもんじゃないゾ



苦節600年
ようやく、この役割を
思い出してくれたか...

総合学習の時間だけでなく**歴史や地理や地域の授業**としても学ぶことができるね

歴史が好きだからめっちゃ面白いよ
村社や郷社になっている神社って
災害に強い城郭の跡地が多いんだね
神仏習合って初めて知ったよ

境内が広いのはお城だったからか
(隣の道路は**川だったのか**...)

この神社は隣の道路が川だった頃に、国境の前線基地として城が置かれていたんだよ

地域の歴史や民俗って防災の役にたつか...
今度、郷土史を勉強している仲間にも声をかけよう



資料：郷土史防災歴史年表



郷土史防災歴史年表		
西暦	年号	事象
1571	元亀2年	織田信長「比叡山延暦寺焼き討ち」=寺社勢力の台頭
1582	天正10年	本能寺の変
1588	天正16年	豊臣秀吉「検知・刀狩り」=寺社勢力の衰退
1590	天正18年	豊臣秀吉「小田原北条氏滅亡」=天下統一
1600	慶長5年	関ヶ原の合戦
1603	慶長8年	徳川家康征夷大將軍に任官=江戸幕府の成立
1614	慶長19年	大阪冬の陣
1615	慶長20年	大阪夏の陣=天下統一=武家諸法度発布
1615	慶長20年	徳川幕府「一国一城令」発布
1631	寛永8年	徳川幕府「新寺建立禁止令」発布
1632	寛永9年	徳川幕府「末寺帳」義務付け=海賊寺の撲滅
1638	寛永15年	徳川幕府「宗門改め」実施=寺請制度の成立
1868	慶応4年	「神仏分離令」発布=神仏習合の崩壊
1870	明治3年	「大教宣布」発布=廃仏毀釈の発生
1871	明治4年	「廃藩置県」開始
1872	明治5年	「学制」発布=制度としての大学、中学、小学の成立
1873	明治6年	「廃城令」発布
1879	明治12年	「教育令」発布=現在の学区に近い学校配置
1889	明治22年	「町村制」導入=基礎自治体の成立=廃藩置県の完了
1897	明治30年	文化財保護運動の広まり=城跡破壊の中止=公園化
1900	明治33年	「耕地整理法」発布=圃場整備の始まり=街並の改変
1919	大正8年	「史跡名勝天然記念物保存法」=城跡保存が法制度化
1941	昭和16年	「金属類回収令」=梵鐘・寺鐘等の供出
1946	昭和21年	GHQ「農地改革」=荘園の没収=宗教施設の衰退

このあたりに建立された
神社仏閣は災害に強い
立地の可能性が高い

曹洞宗の拡張

このあたりに建立された
神社仏閣はあまり災害
に強いとは言えない

浄土真宗・法華宗(日蓮
宗・時宗)の拡張

役所や学校の
成立



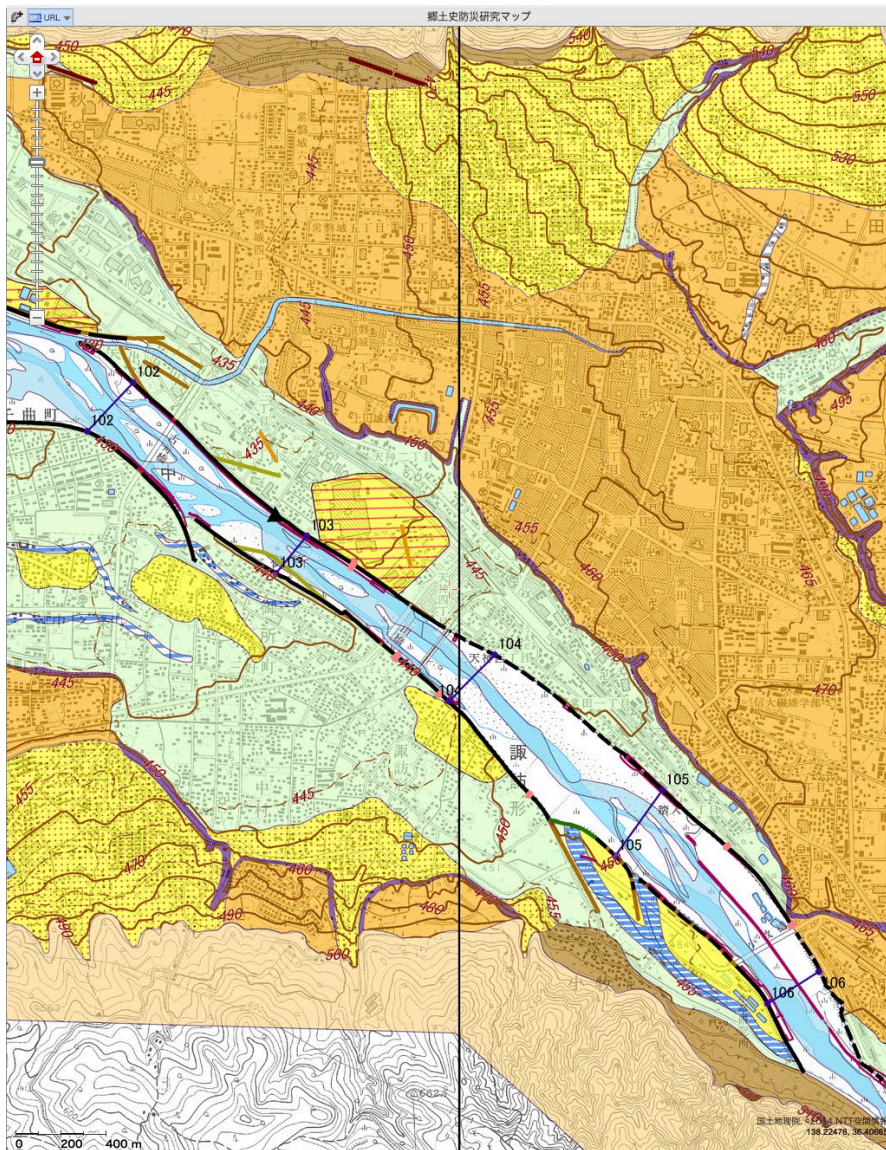
資料：陣鐘として使われた梵鐘の例

- **長野県長野市松代 真田記念館蔵 陣鐘**
真田幸隆が武田信玄より拝領(真田記念館HPより抜粋・編集)
- **長野県南佐久郡久穂町 自成寺蔵 陣鐘**
1499(明応8)年 武田信玄の寄進と伝わる(財団法人八十二文化財団HPより抜粋・編集)
- **静岡県清水市 清見寺蔵 梵鐘**
1590(天正18)年 豊臣秀吉による小田原攻めの際に伊豆の韮山まで運ばれ、韮山城攻めの陣鐘として使われ、戦の後に戻された。(戦国の合戦:小和田哲男著より抜粋・編集)
- **静岡県御前崎市のお堂の梵鐘**
1600(慶長5)年 関が原の戦いの時、東軍の兵士により美濃赤坂に運ばれ陣鐘として使われたが、そのまま戻されず。(戦国の合戦:小和田哲男著より抜粋)
- **京都府京都市寺町二乗 妙満寺蔵 梵鐘**
豊臣秀吉による合戦・根来攻めの際、家来が道成寺の梵鐘を陣鐘として使い、そのまま京都に持ち帰り妙満寺に納めた。顕本法華宗総本山。(知れば行きたくなる! 京都の「隠れ名所」:若村亮著より抜粋)
- **岐阜県大垣市赤坂(美濃赤坂) 安楽寺 梵鐘**
「関が原の合戦の際に西軍石田三成方の勇将大谷吉継が士気を鼓舞したり合図用に、兵庫県から陣鐘として持参したもので、戦後徳川家康が戦利品として安楽寺に寄進した歴史的にも由緒あるものです(安楽寺梵鐘解説板より抜粋)。非公開。
- **長野県諏訪市 温泉寺 梵鐘**
1582(天正10)年、武田領へ攻め入った織田信長軍は市田(下伊那郡)の安養寺の鐘を奪い陣鐘とし、諏訪まで引いてきて上諏訪(今の諏訪大社上社)のあたりに捨てて行った。江戸時代に高島藩主諏訪家が高島城の能舞台を移築し温泉寺を創建した際に、寺の梵鐘とした。梵鐘は約85kmほどを引きずられてきたため、傷があり、名文が摩耗している。(温泉寺縁起より抜粋・編集)非公開。
- **島根県出雲市 一畑寺(一畑薬師)梵鐘**
鐘は明治24年鑄造。もとは天正10年毛利輝元の陣鐘を改鑄したものと伝えられる。(一畑薬師HPより抜粋)
- **滋賀県大津市坂本 西教寺 陣鐘**
比叡山延暦寺の門前町、坂本地区にある天台真盛宗の総本山。飛鳥時代に聖徳太子が創建。信長の比叡山焼き討ちで焼失したが、その後坂本城主となった明智光秀が寺院を復興、坂本城の城門と共に陣鐘を寄進。長らく梵鐘として使われたが痛みが激しく昭和62年以降は収蔵庫で保管。(びわ湖大津観光協会HPより抜粋・編集)
- **兵庫県三木市久留美 慈眼寺 梵鐘**
1309(延慶2)年鑄造、天正年間の三木合戦のおり、羽柴秀吉の武将有馬法印則頼が寺の裏山に布陣し、陣鐘に使用したと伝えられる。(三木市HPより抜粋・編集)

※まだまだあるので調べてみてください！この分野を研究している方がいないので是非チャレンジを！

資料：長野県上田市（治水地形分類図）

治水地形分類図は、治水対策を進めることを目的に、国が管理する河川の流域のうち主に平野部を対象として、扇状地、自然堤防、旧河道、後背湿地などの詳細な地形分類及び河川工作物等が盛り込まれた地図です。



台地・段丘	低地の一般面	低地の微高地	瀬水地形	人工地形	その他
高位面	谷地平野・氾濫平野	扇状地	天井川の部分	平坦化地	凹地・浅い谷
上位面	海岸平野・三角州	緩扇状地	高水敷	農業用平坦化地	凹陥地
中位面	後背低地	自然堤防	低水敷・浜	高い盛り地	
下位面	旧河道	砂丘	湿地	盛り地	
低位面		砂しき屋 砂しき州	落堀	埋土地	
		天上川沿いの 微高地			